

令和2年度 岐阜県家庭教育支援推進事業（家庭教育支援員）の活動報告書

◆市町村名

下呂市

◆配属部署

市長公室市民活動推進課

◆家庭教育支援員の役割

ママたちが気軽集える「赤ちゃんカフェ」「UPカフェ」を開催。「ママの元気は、こどもの元気」をモットーとし、ママたちのつながり作りと学びの場を提供する。手作りお菓子とお茶をいただきながら、リラックスした中でのおしゃべりや子育ての情報交流、バラエティーに富んだメニューのプチ講座を行うことで、ママたちの悩みの軽減につなげている。支援員は、子育て経験のある地域の先輩ママたち。「下呂で子育てできてよかった」と感じてもらえるよう、自らの経験を生かし、一人ひとりに寄り添った支援を行う。

◆主な活動

■活動体制

- ・年3回のスタッフ会議：事業計画、予算計画、振り返り等を行う。
- ・スタッフ：市内9人（子育て経験者&子育て中のママ）
1開催あたり6人程度。下呂市を南北2地区に分け分担。
お菓子スタッフが手作りお菓子を提供
- ・開催場所：主に公民館や市民会館。
- ・広報活動：4月と10月に半年分の開催予定チラシを配布
（小学校やこども園、児童館、支援センター、病院、振興事務所等）
各回の開催チラシは随時配布
- ・申し込み方法：メール、電話、申込書
- ・開催時間：10:00～11:30（平日）
- ・対象者
「赤ちゃんカフェ」：0歳児のこどもをもつ母親、妊婦さん
「UPカフェ」：年齢に関係なく子育て中の母親、妊婦さん

■活動内容

- ①自己紹介
一人ずつ自己紹介し、互いの情報を共有する。
- ②フリートーク
手作りお菓子とお茶をいただく。4～5人のグループを作り、毎回違ったテーマで座談会をしたり、子育てについての悩みを打ち明け、互いにアドバイスしたりする。
- ③プチ体験
ヨガや体操、ミニコンサート、工作等、母親が体験したり経験したりして、リフレッシュできるコーナーを実施する。
- ④子育て講話
保健師や栄養管理士などを講師に招き、子どもの心身の発達やコミュニケーションの取り方、食育などの講座を開催する。
- ⑤親子の触れ合い
ベビーマッサージや親子体操、手遊び、レクリエーションなど、親子のコミュニケーションを促す活動体験コーナーを実施する。

■コロナ禍におけるR2年度の活動

6月学校再開後準備を進め、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら9月から開催。赤ちゃんカフェ18回・UPカフェ4回行った。

- 【内容】 ①自己紹介 ②レクリエーション ③グループトーク（2人～3人）
レクリエーション：手遊び、絵本の読み聞かせ、脳トレクイズ、体操 等
- ・感染症対策（検温・消毒・換気・距離の確保・マスク着用）
 - ・飲食の提供は行わない。
 - ・会場に応じて人数を制限。
 - ・時間を1時間に短縮。

◆成果

- 子育ての悩みを気軽に話し合い、ママ同士共感したり、アドバイスしたりできる場となっている。「悩んでいるのは自分だけではないと分かり、気持ちが楽になった」等の声が多く寄せられている。
- 支援員が、地域のことをよく知る地元の母親であることから、個別に声をかけ新規の参加者を増やしたり、日常生活の中でも気軽に話したり、ママ達にとって頼りになる存在となっている。
- 参加者は少なくなったが、コロナ禍だからこそ、話す場を求めているママたちの居場所であり、リフレッシュできる場になった。

◆問い合わせ先

下呂市 市長公室 市民活動推進課

0576-24-2222